

第2回会合の論点について

平成 24 年 7 月 5 日

薩摩川内市役所

論点:

1. 事務局より、以下の項目について説明。
 - (1) 本市における次世代エネルギーの利用可能量
 - (2) 次世代エネルギーを活用したまちづくりに関する事務局の考え方
 - (3) エネルギー需要サイドの検討例及び家庭における将来像の検討例
2. 自由討議の後、古川委員長より本市在住委員を中心とした作業部会を開催し、議論の成果を第3回会合に報告することにつき言及。

1. 本市における次世代エネルギー利用可能量
資料1-2にて別途説明。
2. 次世代エネルギーを活用したまちづくりに関する事務局の考え方(別紙参照)
 - (1) これまでは地域のエネルギー利用可能量等を踏まえ、再生可能エネルギー施設を導入し、地域活性化を図る発想が主流。
 - (2) 今後、本市が抱える課題解決につながる施策を実施し、これに合わせて、エネルギーの作り方(供給面)や使い方(需要面)を考える発想も重要。
 - (3) また、次世代エネルギーの活用は、供給面のみならず需要面にも着目していくことが重要。
3. 本市在住委員を中心とした作業部会(地元作業部会)
資料2にて別途説明。

以上

次世代エネルギーを活用したまちづくりに関する事務局の考え方

H24.年5月25日
薩摩川内市役所

市が抱える課題

- 少子高齢化に伴う人口(含む就労人口)の減少
- 市内総生産額の低下
- 合併特例措置の終了に伴う普通交付税額の縮減

出典:第1回委員会配布資料【資料3】

供給面、需要面から効果を検証することになるが、市民へのサービスは需要面に近くなるのではないか。

供給面のみならず**需要面**も考慮に入れる

エネルギー分野の相当程度の技術・知見を集めた企業・大学等

出典:第1回委員会配布資料【資料5】

望ましいエネルギーミックス

(エネルギー政策の改革の方向性)

(ア)需要家の行動様式や社会インフラの変革も視野に入れ、省エネ・節電対策を抜本的に強化

(イ)再生可能エネルギーの開発・利用の最大限加速化

出典:第1回委員会配布資料【資料2】

『エネルギーに関する次世代のまち』

目指すものは、最大のステークホルダーたる市民の喜ぶエネルギー面の処方箋

ビジョン・・・上記課題や地域における次世代エネルギー利用可能量等を踏まえ、長期的視点に立った方向性や重点分野の提示。

行動計画・・・ビジョンを踏まえ具体的事業を提示。

(別紙) 本市が抱える課題解決、本市版スマコミ構築に係る取り組みを包含。10年程度の枠組みとし、定期的見直し等を実施。

次世代エネルギーを活用したまちづくりに関する事務局の考え方(具体例)

行動計画

市民生活の向上

〔市が抱える課題解決〕

① 1. 防災能力の向上

→自立防災拠点のエネルギー次世代化
(次世代エネ、エネルギー管理システム)

2. 省エネルギー・節電

→次世代バッテリー等を利用した省エネ・節電化
(次世代エネバッテリーの導入、スマートグリッド)

3. 公共交通網の利便性向上

→バス等の燃料消費量管理の仕組み導入による効率化と
利便性の向上の両立
(情報通信技術を活用したデマンド交通)

4. 農業・水産業のブランド化

→情報通信技術、次世代エネを活用した産業の高度化

当面やるべき事項

持続可能性
の検証

将来取り組むべき
事項

〔関連産業の創出・育成〕

①

1. エネルギー利用関連産業
コールセンター、アグリゲーター
コンサルタント…

2. ブランド化による観光振興

甌島ブランド
次世代エネルギーのまちブランド

エネルギーの
ニーズの把握

使いたい
次世代エネルギー

利用できる
エネルギーの掘り起こし